

「高校生世代実態調査」のアンケート調査結果（速報）について

高校生世代が抱える悩みや不安に寄り添い、子どもたちの育ちや権利が保障される居場所づくりを検討するために実施した「高校生世代実態調査」のうちアンケート調査結果（速報）について報告します。

1 調査の概要

(1) 調査目的

高校生世代の実態を正確に把握し、気軽に相談できる環境や体制の整備など、必要な支援に繋げる対応策に取り組むための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査対象及び配付数等

区内在住の高校生世代及びその保護者

<配付数、回収数等>

対象	配付数	回収数	回収率
高校生	4,815人	787人	16.3%
保護者	4,513人	748人	16.6%

(3) 調査方法

調査票を郵送し、紙媒体又はオンラインで回答を回収

(4) 調査期間

令和5年3月13日（月）から4月4日（火）まで

2 主な調査結果

(1) 高校生世代への調査結果

ア 高校生世代の状況

53.4%が港区で生まれ育っており、95.8%が教育機関に就学しています。就学先については74.6%が区外で、58.6%が主な活動場所を就学先や職場としています。

イ 相談について

相談しない理由は、「面倒」や「相談しても解決につながらない」の回答が多い一方、「相談する相手がない」という回答が14.1%ありました。

相談しやすい方法はSNSを活用した方法が53.5%、対面での相談が51.3%となっています。相談先を決める基準は「秘密を守ってくれる」が65.1%と最も多く、「ただ話を聞いてくれる」も41.2%でした。

ウ 居場所や居心地について

普段、居心地がよいと感じる場所が「ない」と回答したのは全体の4.2%でした。居心地がよいと感じる場所は「自宅」が90.8%と多く、次に「学校」が32.8%でした。

居心地がよいと感じる理由は、「好きなことを自由にして過ごせる」が68.9%で最も多く、次に「何もせずのんびりできる」が64.9%であり、自由に過ごせる空間に居心地の良さを感じている傾向にあります。

エ 区の施設や取組について

「子ども中高生プラザ」の認知度は62.8%で、「知らなかった」と回答したのは、36.6%でした。43.1%が小学生まで利用しており、現在も利用しているのは11.7%でした。

利用しなくなった理由は、「勉強や部活が忙しい」や「一緒に行く友人がいなくなった」が多い傾向にあります。

新しい高校生世代の居場所づくりについては、94.2%が「ほしい」と考えており、無料で利用でき、行きやすい場所にあることが望まれています。

(2) 保護者への調査結果

ア 子どもとの関わり方について

子どもが高校生世代になってから、29%の保護者が悩みを相談されたことが「ない」と回答しています。相談を受けている保護者は「進路や将来に関すること」が84.3%と最も多く、次に「学校のこと」が61.5%でした。

保護者が子どもとの関わりで悩んでいる回答は全体の59.2%で、悩みは相談内容に比例して「進路や将来に関すること」の悩みが34.9%と最も多く、次に「うまく助言できるかわからない」が24.5%でした。

さらに、保護者の自身の相談相手は「配偶者」が69.7%と最も多い一方、4.3%が「相談する相手はいない」との回答でした。

イ 区の施設や取組について

保護者の「区立子ども中高生プラザ」の認知度は76.7%で、高校生世代よりも高い認知度でした。

新しい高校生世代の居場所づくりについては、高校生世代と同様に、無料で利用でき、行きやすい場所にあることが多く望まれています。

居場所や仕組みをつくるために、区はどのようなことに取り組むべきかについては、「子どもたちが気軽に立ち寄れる場所をつくる」が68.9%と最も多く、次に「子どもたちの相談を柔軟に対応する仕組みをつくる」が47.9%でした。

3 その他（ヒアリング調査について）

現在、区内児童館・子ども中高生プラザ等（11施設）の職員及び区内高校（5校）の教諭にヒアリング調査を実施中です。

高校生世代と関わる機会が多い大人の立場から意見を聞き、アンケート結果を補足することで、より効果的な居場所づくりの検討を進めます。

4 今後のスケジュール

令和5年8月～9月	アンケート調査結果の分析、ヒアリング調査実施及び分析
10月	こどもまんなか・少子化等対策特別委員会において結果及び今後の方向性について報告

「高校生世代実態調査」アンケート調査結果の概要（速報値）

1 調査の概要

(1) 調査目的

高校生世代の実態を正確に把握し、気軽に相談できる環境や体制の整備など、必要な支援に繋げる対応策に取り組むための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査主体

港区子ども家庭支援部子ども若者支援課

(3) 調査対象・調査方法・調査期間・回収率等

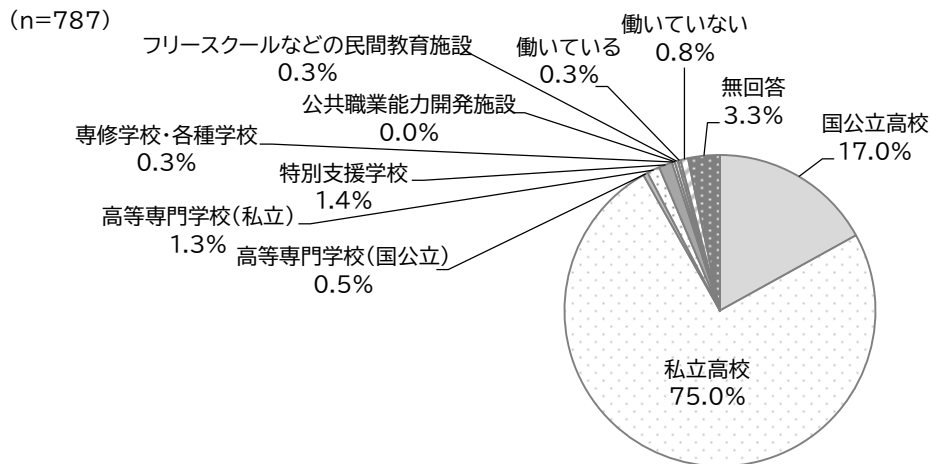
調査対象	調査方法	調査期間	配布数	回収数	回収率
ア 高校生	郵送配布、郵送・WEBにより回収	令和5年3月13日（月） ～4月4日（火）	4,815人	787人	16.3%
イ 保護者	郵送配布、郵送・WEBにより回収	令和5年3月13日（月） ～4月4日（火）	4,513人	748人	16.6%

2 高校生世代アンケート調査

(1) あなたについて

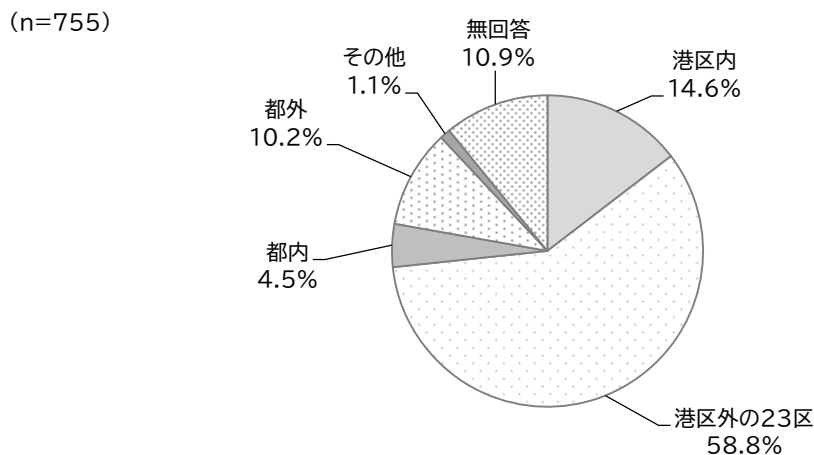
問1 (1) あなたの現在の状況についてお聞きします。※令和5年3月1日時点 就学されている方は1～8、就学されていない方は9・10のいずれかを選択してください。

「私立高校」が75.0%と最も多く、次いで「国公立高校」が17.0%となっている。



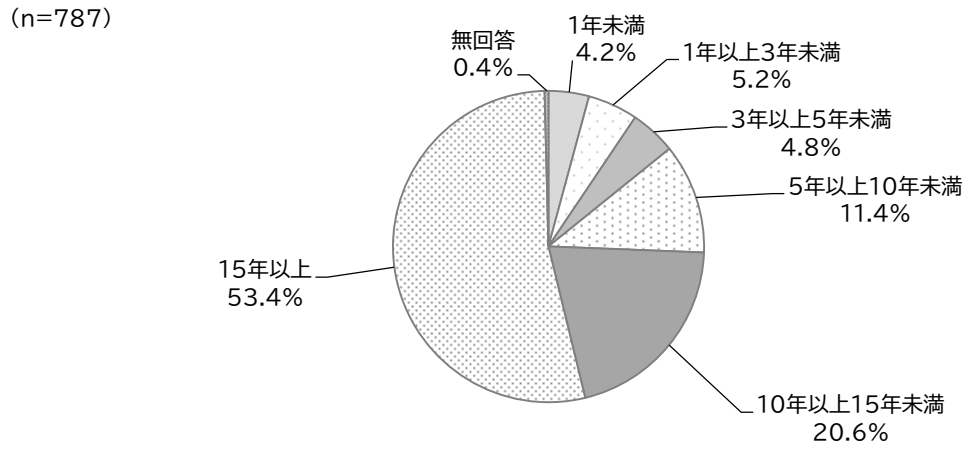
問1 (3) あなたの通っている学校または職場はどこにありますか。(○は1つ)

「港区外の23区」が58.8%と最も多く、次いで「港区内」が14.6%、「都外」が10.2%となっている。



問4 港区での通算の居住年数を教えてください。(○は1つ)

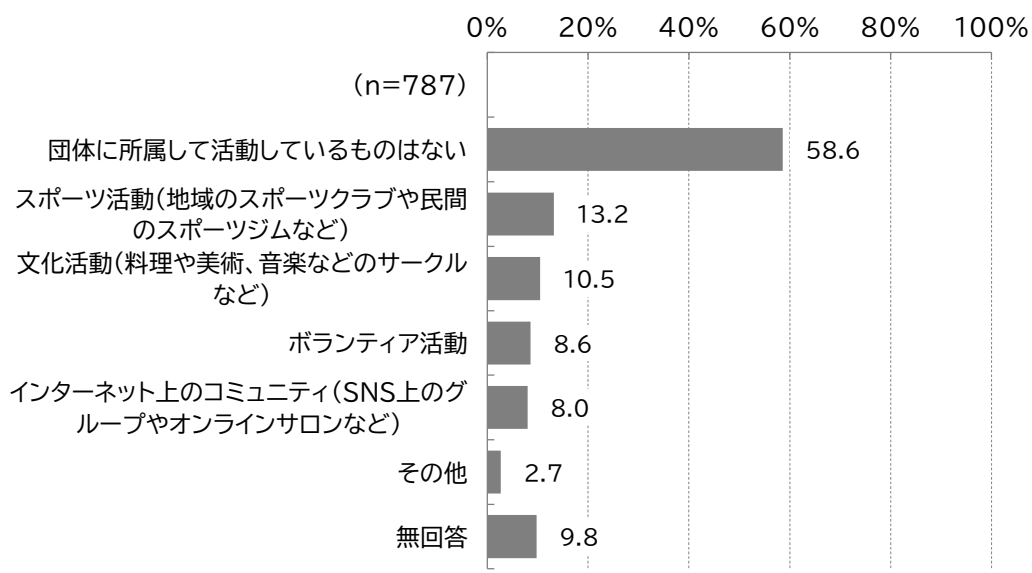
「15年以上」が53.4%と最も多く、次いで「10年以上15年未満」が20.6%、「5年以上10年未満」が11.4%となっている。



問8 あなたが、学校や職場以外で所属し活動しているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

学校や職場以外で所属し活動しているものが「ある」が31.6%、「団体に所属して活動しているものはない」が58.6%となっている。

「ある」の中では、「スポーツ活動(地域のスポーツクラブや民間のスポーツジムなど)」が13.2%、「文化活動(料理や美術、音楽などのサークルなど)」が10.5%となっている。

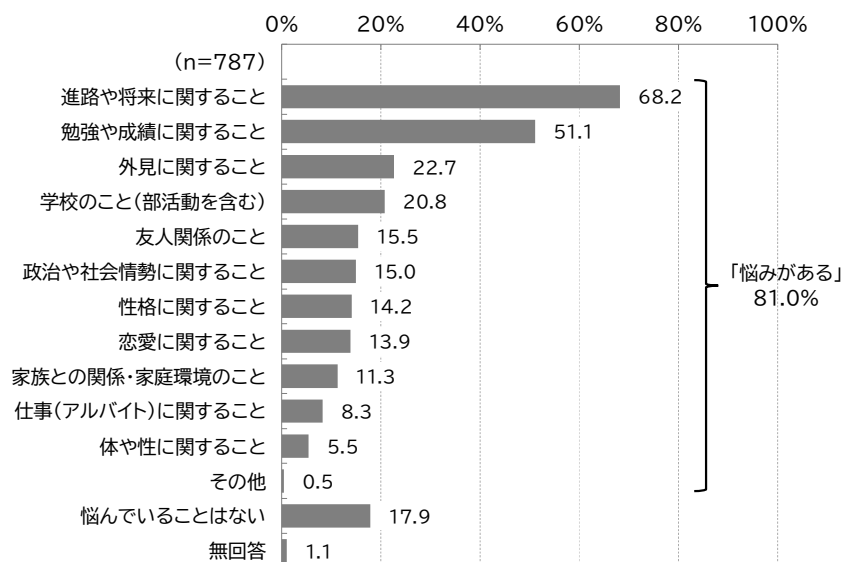


(2) 悩みについて

現在抱えている悩みはあるか。(問 15)

現在抱えている悩みは「ある」が81.0%、「悩んでいることはない」が17.9%となっている。

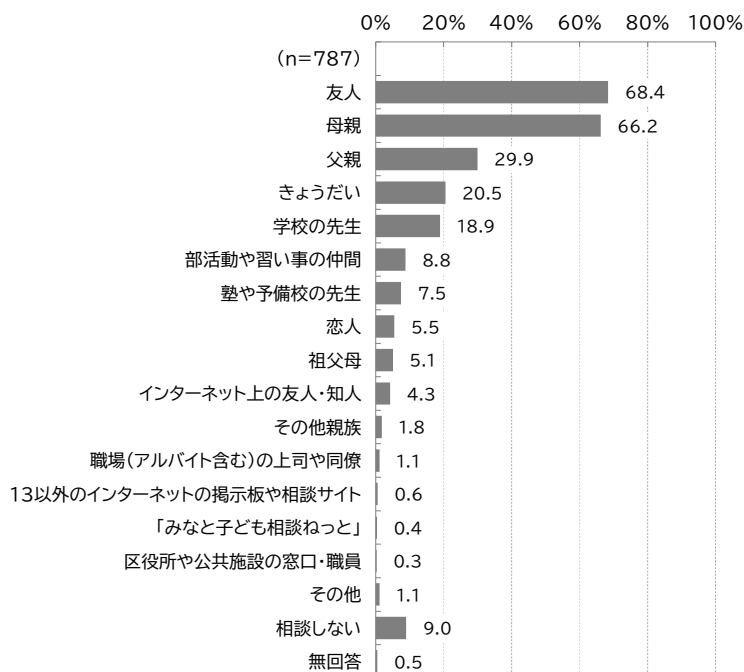
また、「ある」の中では、「進路や将来に関すること」が68.2%と最も多く、次いで「勉強や成績に関すること」が51.1%、「外見に関すること」が22.7%となっている。



悩みを抱えた時、誰に(どこに)相談するか。(問 16)

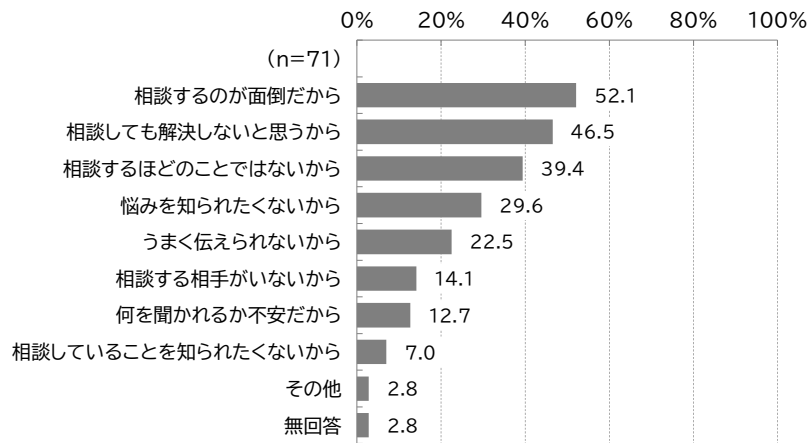
悩みを抱えた時、誰かに(どこかに)「相談する」が90.5%、「相談しない」が9.0%となっている。

また、「相談する」の中では、「友人」が68.4%と最も多く、次いで「母親」が66.2%、「父親」が29.9%となっている。



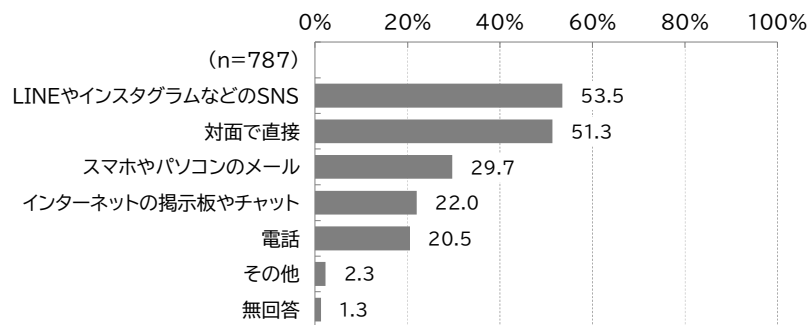
相談しないのはなぜか。(問 16 (2))

「相談するのが面倒だから」が52.1%と最も多く、次いで「相談しても解決しないと思うから」が46.5%、「相談するほどのことではないから」が39.4%となっている。



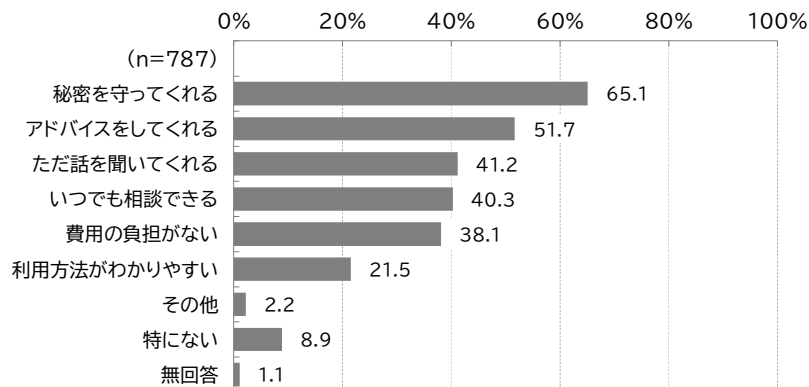
どのような方法であれば相談しやすいか。(問 17)

「LINE やインスタグラムなどの SNS」が53.5%と最も多く、次いで「対面で直接」が51.3%、「スマホやパソコンのメール」が29.7%となっている。



あなたが悩みについて誰か(どこか)に相談するとき、相談先を選ぶ基準として重視することはなにか。(問 18)

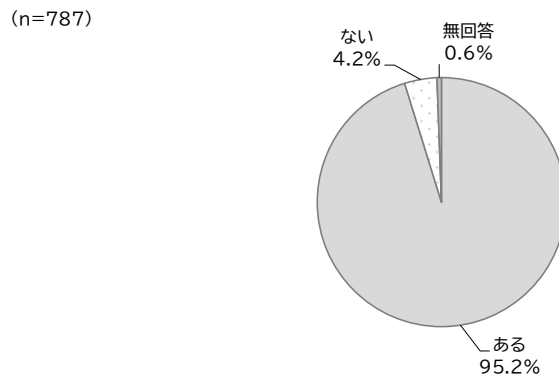
「秘密を守ってくれる」が65.1%と最も多く、次いで「アドバイスをしてくれる」が51.7%、「ただ話を聞いてくれる」が41.2%となっている。



(3) 居場所と居心地がよいと思う人について

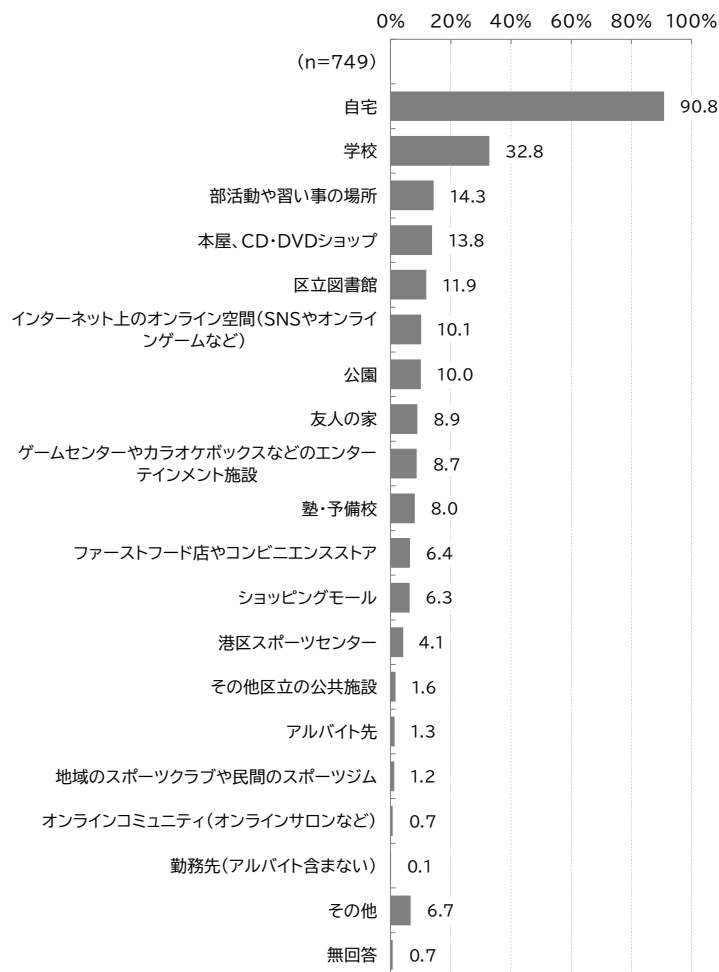
普段居心地がよいと感じる場所はあるか。(問19)

「ある」が95.2%と最も多く、次いで「ない」が4.2%となっている。



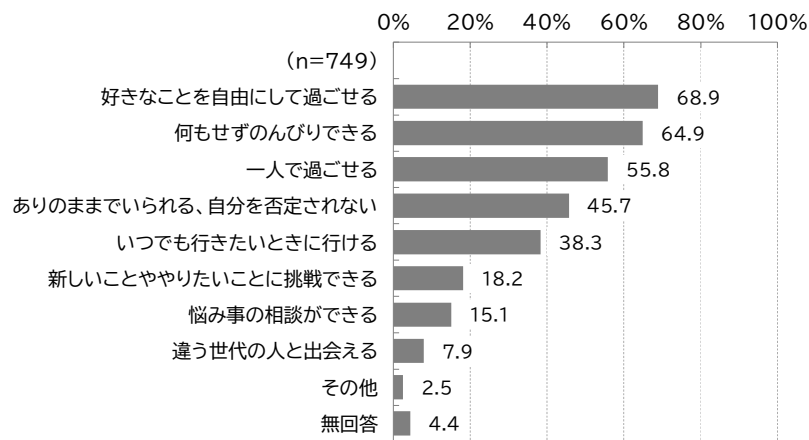
居心地がよいと感じる場所はどこか。(問19(1))

「自宅」が90.8%と最も多く、次いで「学校」が32.8%、「部活動や習い事の場所」が14.3%となっている。



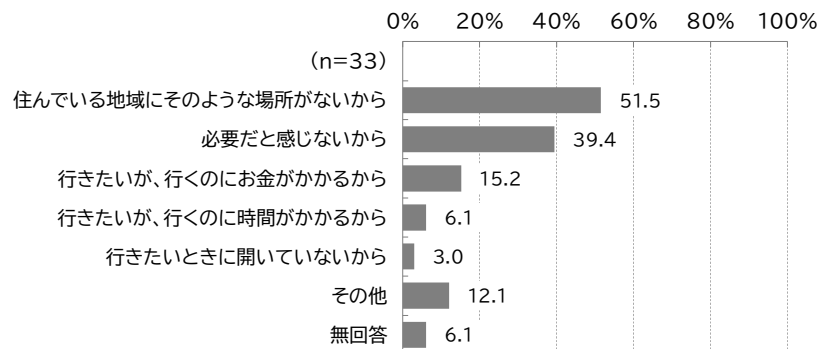
居心地がよいと感じる理由はなにか。(問 19 (3))

「好きなことを自由にして過ごせる」が68.9%と最も多く、次いで「何もせずのんびりできる」が64.9%、「一人で過ごせる」が55.8%となっている。



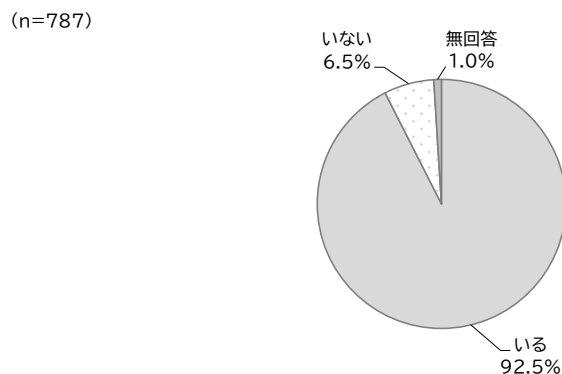
居心地がよいと感じる場所がないと思うのはなぜか。(問 19 (4))

「住んでいる地域にそのような場所がないから」が51.5%と最も多く、次いで「必要だと感じないから」が39.4%、「行きたいが、行くのにお金がかかるから」が15.2%となっている。



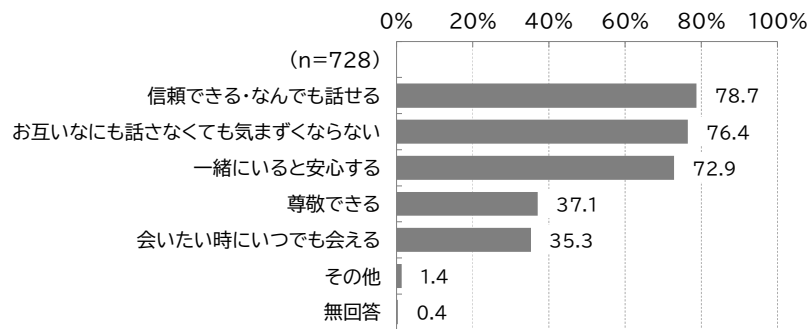
一緒にいて居心地がよいと感じる人はいるか。(問 21)

「いる」が92.5%と最も多く、次いで「いない」が6.5%となっている。



居心地がよいと感じる相手はどのような人か。(問 21 (2))

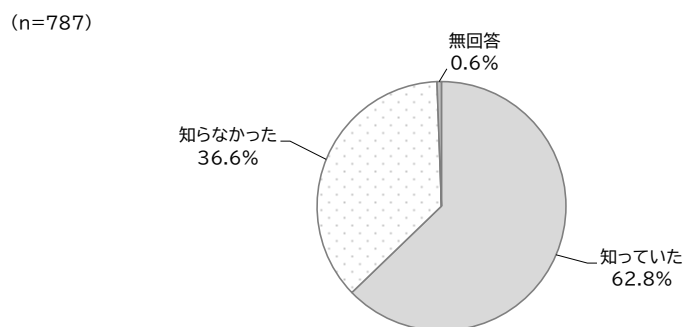
「信頼できる・なんでも話せる」が78.7%と最も多く、次いで「お互いなにも話さなくても気まずくならない」が76.4%、「一緒にいると安心する」が72.9%となっている。



(4) 区の施設や取組について

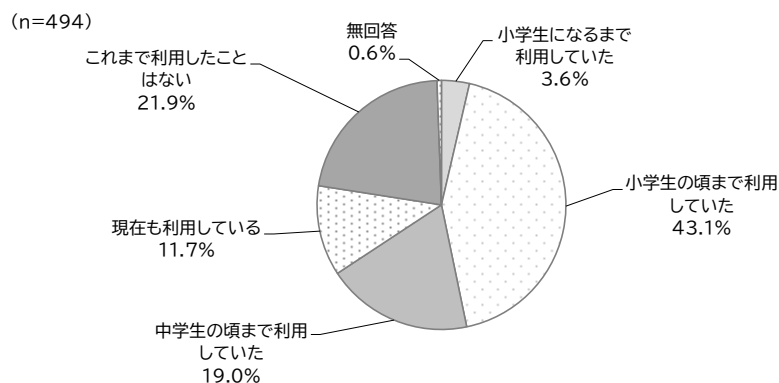
港区にある「子ども中高生プラザ」のことを知っていたか。(問 22)

「知っていた」が62.8%と最も多く、次いで「知らなかった」が36.6%となっている。



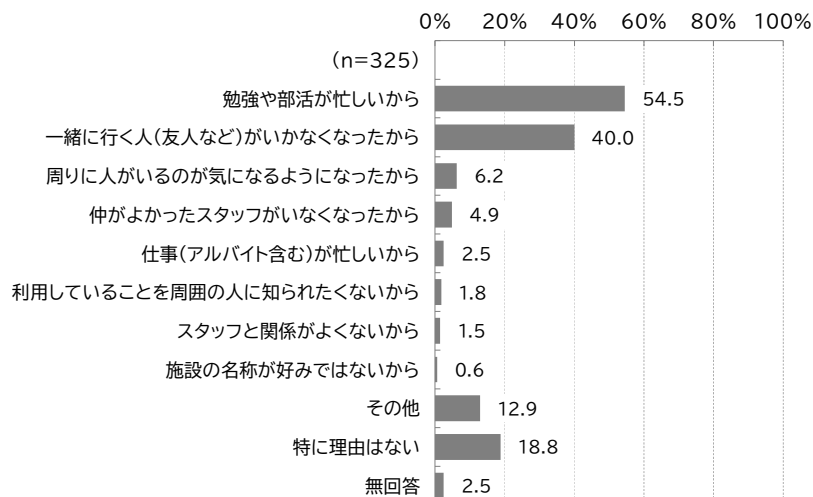
港区にある「子ども中高生プラザ」をいつまで利用していたか。(問 22 (1))

「小学生の頃まで利用していた」が43.1%と最も多く、次いで「これまで利用したことはない」が21.9%、「中学生の頃まで利用していた」が19.0%となっている。



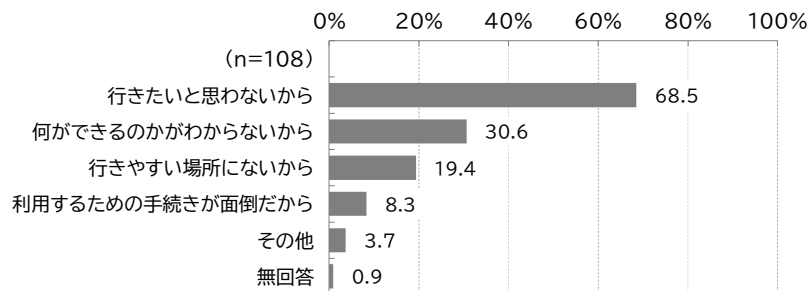
子ども中高生プラザを利用することをやめたのはなぜか。(問 22 (2))

「勉強や部活が忙しいから」が54.5%と最も多く、次いで「一緒に行く人(友人など)がいなくなったから」が40.0%、「特に理由はない」が18.8%となっている。



利用したことがない理由は何か。(問 22 (3))

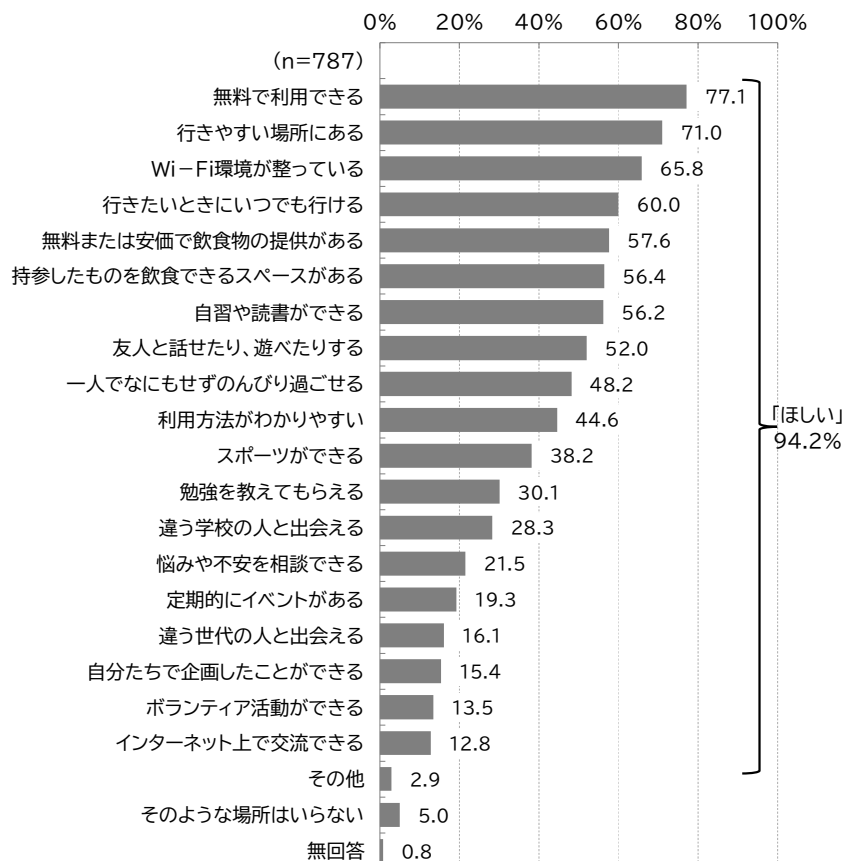
「行きたいと思わないから」が 68.5%と最も多く、次いで「何ができるのかがわからないから」が 30.6%、「行きやすい場所がないから」が 19.4%となっている。



港区内に新しく高校生世代の皆さんの居場所をつくるとしたら、どのような場所であれば行ってみたいと思うか。(問 23)

区内に新しい居場所が「ほしい」が 94.2%となっており、「そのような場所はいらない」は 5.0%にとどまっている。

「無料で利用できる」が 77.1%と最も多く、次いで「行きやすい場所にある」が 71.0%、「Wi-Fi 環境が整っている」が 65.8%となっている。



高校生世代の居場所づくりについて、区に求めることや期待することはなにか。(問 24)

165 人の回答者から 231 件の自由記述があった。記述された回答は、以下のように分類し、その一部を抜粋して掲載している。

	分類	件数
1	勉強・自習ができる	34
2	様々な人と交流できる	20
3	スポーツができる	15
4	施設設置について	14
5	好きなことができる	14
6	飲食ができる	12
7	無料で利用できる	12
8	悩みが相談できる、ストレスが解消できる	8
9	Wi-Fi がある	8
10	一人で過ごせる	7
11	行きやすい(雰囲気)	7
12	金銭的な補助など	7
13	区の施設について	7
14	夜間利用ができる	7
15	年代のすみ分け	7
16	安心・リラックスできる	6
17	オンライン	6
18	静かで落ち着きのある	4
19	個室	4
20	イベントがある	4
21	将来につながる経験ができる	4
22	アンケートについて	3
23	社会貢献ができる	3
24	行きやすい(距離)	2
25	宿泊できる	2
26	動物と触れ合える	2
27	障がいの有無など関係なく利用できる	1
28	その他	11

○意見の抜粋

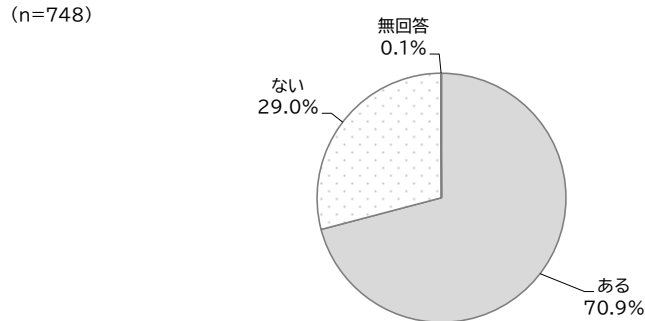
- ・子ども中高生プラザに高校生専用の静かなフロアを作ってくれて、大学受験の勉強ができる環境と、息抜きのために友だちとおしゃべりできるカフェスペースができれば利用したいと思います。
- ・幼少中高、私立の子どもは地域の友達が全くいないので、地域の人と交流できるコミュニティがあると良いです。
- ・活発に遊ぶ人が溜まり場とするようなところは、居場所を必要としている人たちが居づらすぎる空間になるので、少し遊びには不便であって欲しいです。運動ができて安価な飲食の提供があったら、本当に嫌な高校生の溜まり場になりかねないので、遊べるとしても個々がゆったりとできる空間とはしっかり分けて欲しいです。利用するための壁が低ければ低いほどそういう人たちが集まりやすくなってしまうと思うので、一定の金額がかかっても良いので、とにかく元気な人たちの溜まり場にはして欲しくない、見ているだけで辛いです。
- ・悩みを持っていたり、家庭環境に問題があったりする子向けに作るのも大切だが、それと同時にいわゆる“普通の子”と“普通の子っぽく振る舞っている子”が一緒に行けるような気軽な場所であって欲しいです。
- ・もう少し高校生も居やすいような職員（話しやすい人）が居て欲しいと思いました。

3 保護者アンケート調査

(1) 子どもとのかかわり方について

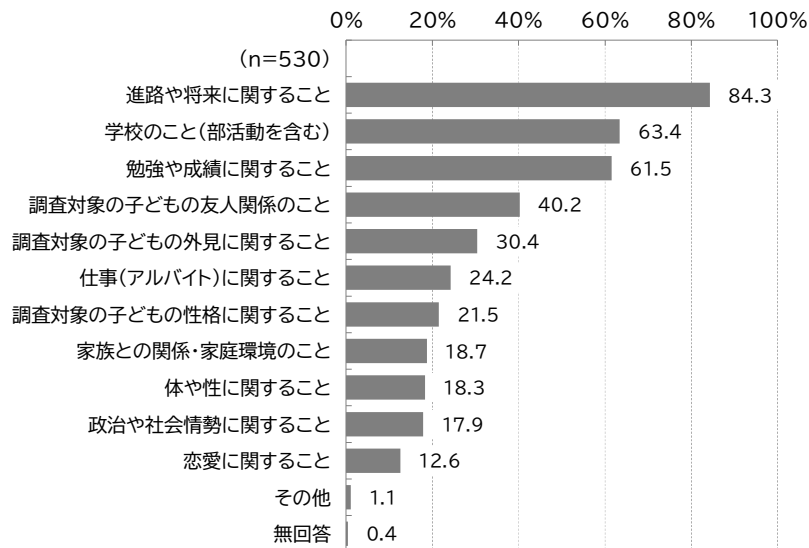
調査対象の子どもが高校生世代になってから悩みを相談されたことはあるか。(問 11)

「ある」が70.9%と最も多く、次いで「ない」が29.0%となっている。



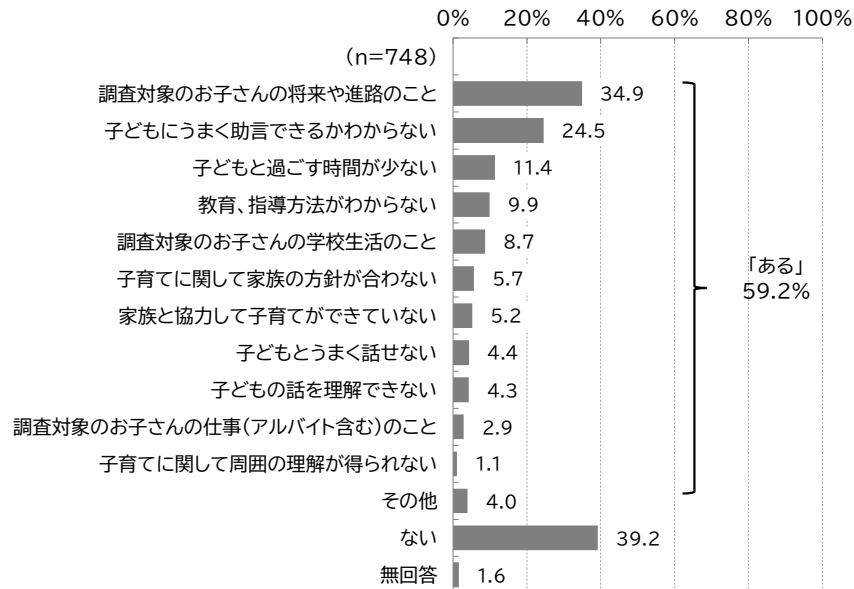
調査対象の子どもからどのような内容について相談されたか。(問 11 (1))

「進路や将来に関すること」が84.3%と最も多く、次いで「学校のこと(部活動を含む)」が63.4%、「勉強や成績に関すること」が61.5%となっている。



調査対象のお子さんとのかかわり方で悩んでいることはあるか。(問 12)

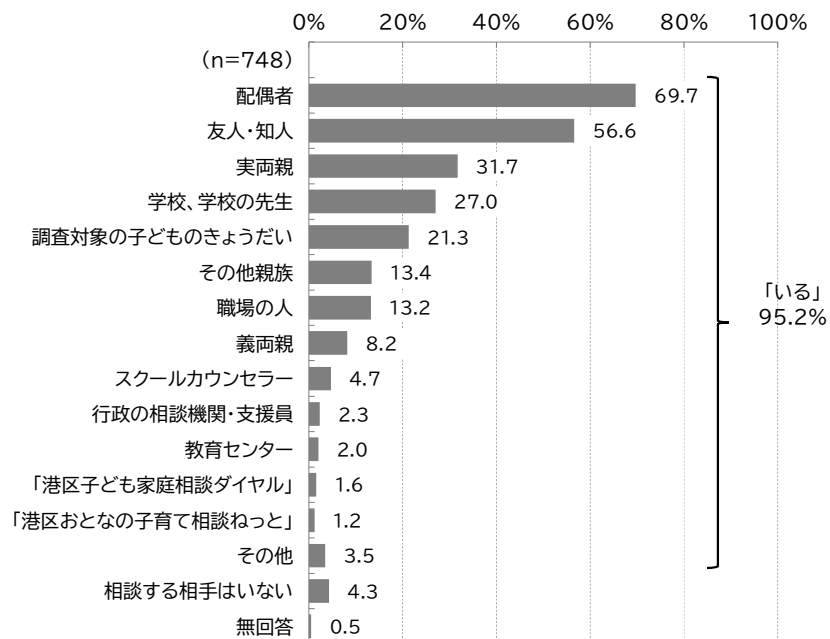
子どもとのかかわり方で悩んでいることは「ある」が59.2%、「ない」が39.2%となっている。また、「ある」の中では、「調査対象のお子さんの将来や進路のこと」が34.9%、「子どもにうまく助言できるかわからない」が24.5%となっている。



子どもから相談をされた時や、子どもとのかかわり方について悩みを抱えた時、相談する相手はいるか。(問 13)

子どもから相談をされた時や、子どもとのかかわり方について悩みを抱えた時、相談する相手は「いる」が95.2%、「相談する相手はいない」が4.3%となっている。

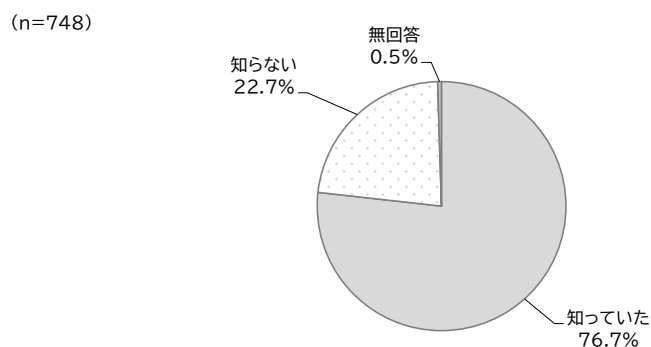
「配偶者」が69.7%と最も多く、次いで「友人・知人」が56.6%、「実両親」が31.7%となっており、「相談する相手はいない」は4.3%にとどまっている。



(2) 区の施設や取組について

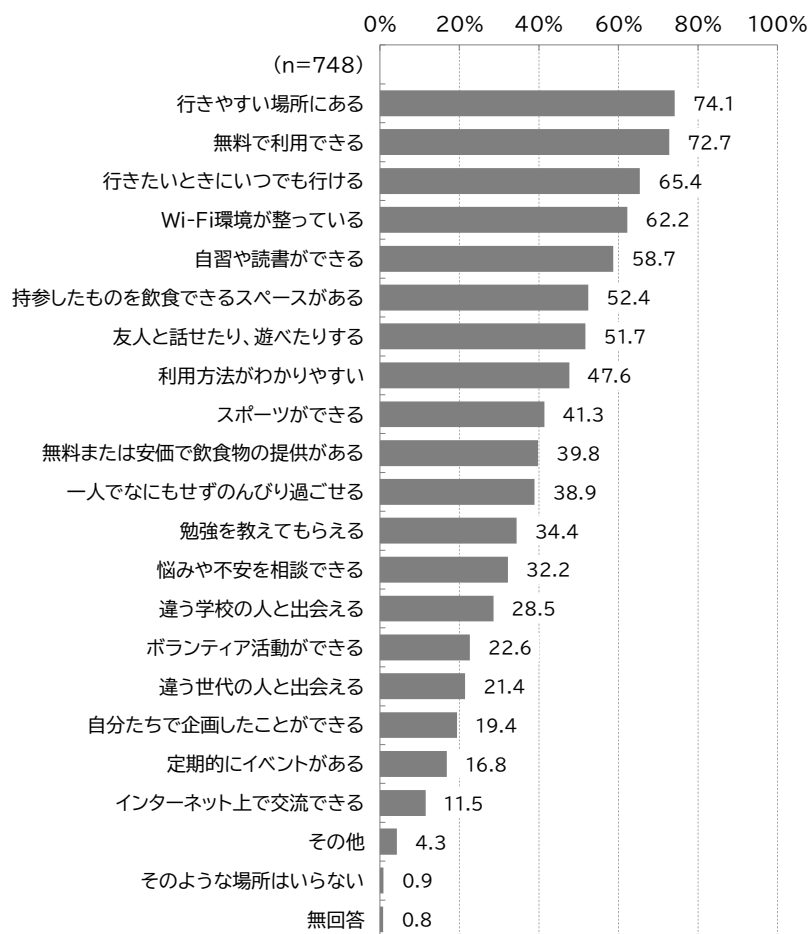
港区にある「子ども中高生プラザ」のことを知っていたか。(問 15)

「知っていた」が76.7%、「知らない」が22.7%になっている。



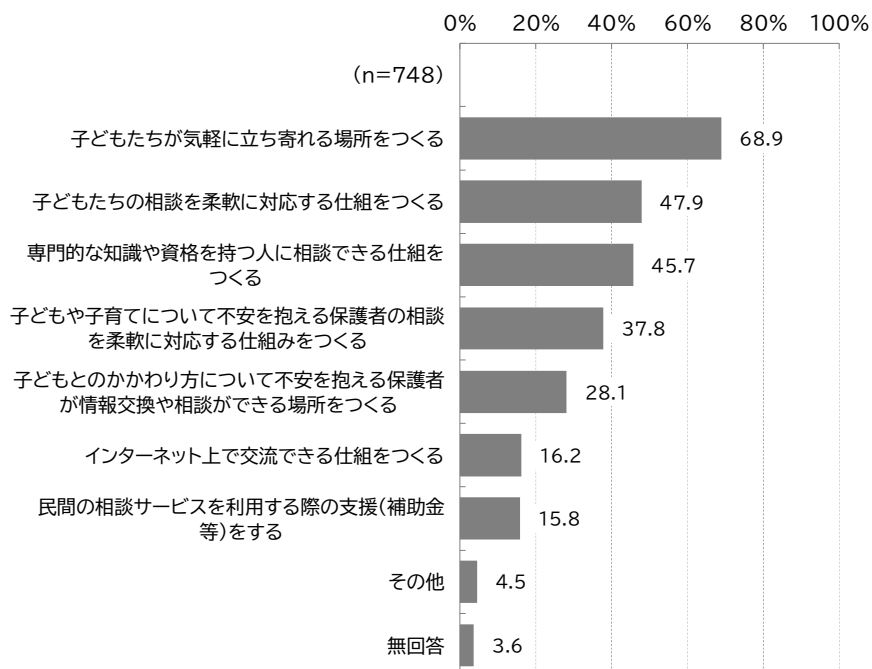
港区内に新しく高校生世代の居場所をつくるとしたら、高校生世代の子どもたちは、どのような場所であれば利用すると思うか。(問 16)

「行きやすい場所にある」が74.1%と最も多く、次いで「無料で利用できる」が72.7%、「行きたいときにいつでも行ける」が65.4%となっている。



高校生世代の子どもたちの育ちや権利が保障される居場所や仕組みをつくるために、区はどのようなことに取り組むべきだと思うか。(問 17)

「子どもたちが気軽に立ち寄れる場所をつくる」が68.9%と最も多く、次いで「子どもたちの相談を柔軟に対応する仕組みをつくる」が47.9%、「専門的な知識や資格を持つ人に相談できる仕組みをつくる」が45.7%となっている。



高校生世代の子どもたちの居場所づくりについてや、高校生世代の子を持つ保護者に対する支援について、区に期待することや求めることはなにか。(問 18)

213 人の回答者から 221 件の自由記述があった。記述された回答は、以下のように分類し、その一部を抜粋して掲載している。

分類	件数
居場所について	97
区の実施について	62
金銭的な支援	28
企画・イベント	10
アンケートについて	2
その他	22

○意見の抜粋

- ・大人になりかけているけれど、まだ子どもという微妙な年齢なので、親の言うことはなかなか響かないところがあるようです。子どもも保護者も、それぞれ信頼する第三者に気軽に相談できる場があると心強いです。子どもにとって、学校以外のサードプレイスとなるような居場所があると、世界が広がると思うので、ふらっと立ち寄りやすい場があるといいな、と思います。
- ・子ども以上大人未満の子どもたちに、学校でもなく家庭でもない居場所が必要だと感じています。バーチャルの世界ではない、リアルな経験をすることができる環境が、親の収入に関係なく全ての子どもたちの手の届く所にあることが望ましいと思います。子ども一人一人の良いところ、優れたところを活かせる社会の仕組みがあれば、子ども達の自己肯定感も高まると思います。
- ・子ども中高生プラザの内容や存在を中・高校生はあまり知らないようです。
- ・情報がなかったので中高生プラザを利用するのを知っていたら、悩むことがなかったと思いました。
- ・高校生が運営するカフェ等あれば、働く機会を得る子もいるし、同年代の子と知り合うきっかけになったりして楽しそうです。
- ・港区は、公立以外の私立、国立、都立中に進学する子どもも多いため、異なる中学進学後も、交流しやすい場があると良いと感じます。
- ・港区に相談する場所がある事を今回知りました。周知されていないと思うので、周知活動をした方が良いと思いました。